

## 第 5 回草津市幼保一体化検討委員会 議事概要

日時	平成 2 5 年 1 月 2 9 日（火） 午後 2 時から午後 4 時 1 0 分まで
場所	草津市役所 4 階 行政委員会室
委員	西川委員長、福永副委員長、吉田委員、白井委員、大森委員、 寺尾委員、東田委員、後藤委員、野村委員、永元委員 (委員 1 2 名中 1 0 人出席)
事務局	白子子ども家庭部長、山本子ども家庭部副部長（総括）、 木村子ども家庭部副部長（幼児担当）、田中幼児課長、 木村幼児課副参事、川那邊幼児課専門員、森神幼児課専門員、 (運営支援) (株)ジャパンインターナショナル総合研究所 小林
議事項目	(1) 草津市の幼保一体化のあり方について ・質の高い幼児教育と保育の一体的提供について (2) 幼児教育と保育の一体的提供に向けて（仮称） 中間とりまとめ（草案）について (3) その他
資料	第 5 回次第 資料 1 草津市幼保一体化検討委員会主な意見のまとめ（第 4 回の振 り返り） 資料 2 草津市幼保一体化検討委員会これまでの主な意見のまとめ 資料 3 幼保一体化（認定こども園）の概要と課題 資料 4 幼児教育と保育の一体的提供に向けて（仮称）中間とりまと め（草案）

### 1. 開会

### 2. 議事

#### (1) 草津市の幼保一体化のあり方について

- ・質の高い幼児教育と保育の一体的提供について

#### ①事務局から説明

<事務局>

- ・資料 3 に基づき、幼保一体化を進めるにあたって、国・県等の状況、幼保一体化のメリット・課題、事例などを説明

②討議・質疑応答

<委員長>

何か質問はないか。ちなみに2008年は平成20年ではないか。

<事務局>

2006年、平成18年というのが正しい。訂正願いたい。

<委員長>

平成18年に制定されて、平成19年からの全国推移が公式的に数値として現れてくるという理解でよろしいか。

<事務局>

はい。

<委員長>

7ページも訂正を願いたい。制度化は、2006（平成18）年。

それでは、本日の中心議題に入りたい。

<事務局>

- ・資料2をもとに、これまでの委員会での意見を報告し、論点整理と本日の議論の内容を提示。
- ・「3歳児からの幼児教育や保育のあり方」、「3歳児からの幼児教育・保育の確保のために求められる体制」、「地域的な子どもの育ちの確保」について
- ・「幼・保・小の連携等」、「幼稚園、保育所に求められる子育て支援や家庭支援機能のあり方」、「特別支援教育のあり方」について

<委員長>

いろいろとご意見を頂戴できればと思うので、発言願いたい。また、先ほどの資料3の認定こども園のメリット、デメリット等も見ていただきながら、お願いしたい。

<A委員>

3歳児からの幼児教育ということで、従来、幼稚園と保育所の違いはあるが、幼保を一体化し、同じ施設の中で長時部と短時部があった場合、その教育の進度や差が出てくる可能性があると思うが、そこら辺はどう考え、整理すればいいか。

例えば、保育所であれば、午前中設定保育をしているところも多いが、その内容は幼稚園の教育にあたるものだと思う。午後の部分に関しても、もちろん遊びという部分はある

が、午前の活動の続きのことをやる場合も結構ある。それが長時部につながるかと思うが、その中で長時部と昼で帰る子の差をどういうふうに考えていくか、擦り合わせていくかという問題が考えられる。

<委員長>

例えば、長浜などでは、ホームページで、短時部は幼稚園的な生活をして、午後はいわゆる預かり的な家庭的な雰囲気と、そのあたりを明確に打ち出している。そういう点もしっかりと検討していく必要がある。

<A委員>

園には園の特色があり、教育をメインとして考えている保育園はやはり午後の活動ということも重要視している。一概に自由遊びというわけにはいかないと思う。

<委員長>

午後からも園の特長を生かしたものが入ってくることもある。

<A委員>

そのとおり。公平性をどう担保するか。

<委員長>

園の独自性を出していくためには、いろいろと取り組みたい園もあるだろう。そのあたりの一体感の担保、公平性という部分のギャップみたいなもの、これはかなり大きな問題ではないかなというご意見。

それぞれの視点から発言いただけると、非常にさまざまなところから検討できるので、ぜひともお願いしたい。

<B委員>

私の学区のほうでは、保育園で公文とか英語とか空手とかを教えているようである。園によってそうでないところもあるが、そういうお稽古ごとのようなものを、一体化した場合にはもってこれるのか。また、別料金というふうになるのか。

<委員長>

その例は、午後にやっているということか。

<B委員>

そのようである。そこの園だけやっていたようなので、少し特殊なのかもしれない。

< A委員 >

今の話は、独自に行っている外部の塾みたいな話だろうと思う。

< 委員長 >

外部を取り入れてやっているということだろう。

< A委員 >

私の言った意味は、園の中での、いわゆる教育という部分での話である。

< 委員長 >

ひょっとするとその部分も入ってくるかもしれないことかもしれない。そこは、もう、外注していこうではないかとか。

< A委員 >

あり得る。

< B委員 >

公文とか英語、空手を教えているのでそこへ行きたいと言う保護者もいるらしい。では、私たちも入れないといけないのかという話になったり、してきていないから駄目なのかなど、そういう話が小学校1年の時にあったりする。

< A委員 >

保育園に行っている子どもはなかなか塾などに行かせることができないので、希望する声もある。

< 委員長 >

確かに、アンケートで、その記述はあった。一体化をどうしていくかという中で、こういう議論は非常に大切。今度、仮に何か一つのモデルをつくらうとしたとき、そのあたりはしっかりと議論できるポイントになるので、ぜひとも、今日そのあたりの心配や気付きの点を出していただきたい。

大きくは、午前の短時部と長時部の教育・保育の質、あるいは内容を具体的にどうしていくかというのは、かなり慎重にしていかなければならない。

< C委員 >

一日の保育時間の中で、子どもたちがどのように過ごすかという時間的な配分といった面から考えると、4時間は教育の時間、あとの4時間はとなったときに、果たして子どもたちの生活にとって、この時間は教育で、この時間からは違うというようなことが本当に沿うのか。子どもの発達を考えた上で、本当にそれが納得いく生活になるのかといったら、分けられるものかという疑問もあるし、本当にそれが生活としていいのだろうか、ということを感じる。

また、塾的なことの導入にしても、個人の希望で保育所の中で外部の講習をして、それを受ける子と受けない子がいることが本当に良いのか。そういうことを想定していくのが本当にいいのかといったら、もっとじっくりと考えなければならない。

<委員長>

非常にデリケートな問題だと思う。保護者の中にはそういう希望を出してこられる方もあるし、その意見は目立つ側面もあるが、保育の中の遊びと学びについて研究を深めている立場からは、いろいろな習い事をするのが幼児期の教育としてふさわしいかといえば、私自身は全く思っていない。むしろ、子どもたちの純粋な生活の中で行われる遊びという営みの中に、本来の幼児期にしかできない学びがあるということを推奨している立場である。これは私の一つの意見で、いろいろな考えを出し合っていくことが必要。そのため、先ほどの意見と内容は十分議論していかないと、簡単に、短時部と長時部でこうしましようとは決められない問題ははらんでいる。

<A委員>

これをさらに突っ込むと、特別支援教育に関わっている。この一体化となった場合、長時部と短時部という考え方で、障害児をどちらに入ってもらうのがふさわしい考え方かということも問題になってくる。

<委員長>

特別な支援を要する子どもをどちらに入れるかという部分と親のニーズ。そのあたりの擦り合わせが必要。

<A委員>

非常に具体的な話になってくる。

<委員長>

しかし、長時部・短時部の問題と特別支援教育、そういうふうにした場合、職員を一日張り付けることができるかなど、具体的にそういう問題にもなってくる。

< A 委員 >

障害児が短時部であった場合、1対1の場合、その担当を午後からどうするのかということにもなってくる。

< 委員長 >

長時部の場合は、さらに加えてどうするか等の問題もある。今の意見に関わる部分や他の部分で、いかがか。

< D 委員 >

教育のあり方について、アンケートでは幼稚園の保護者について、教育に関しての不満はあまりなかったかと思う。私立の保育園では、英語を教えたり、教育の面では満足されている方も多いかと思う。公立の幼稚園がやっているレベルと同じくらいの教育を保育園でも受けられるようにレベルを上げていくほうがいいかなと思う。

< 委員長 >

具体的には。

< D 委員 >

例えば、小学校に入ったときにスムーズに授業についていけるように、最低限の読み書きや、例えば楽器の演奏、合奏など、少し難しいことを何かに向けて練習していくなど、そういう教育を保育園でされているかもしれないが、していないのであれば、した方がいいとは思う。

< 委員長 >

もし、幼稚園で、読み書きとかそういうことで、そのレベルというならば、多分、草津市の幼稚園は、自ら選んでする遊びを中心とした教育が中心で、読み書きとかはやっていないように思う。

< E 委員 >

直接、読み書きは教えていない。環境の中で、「あいうえお」の表を張ったりして、子どもが興味を持ったときに、尋ねてきたら教えるといった指導をしている。

< D 委員 >

私立の保育園ではもうしている。

<委員長>

今は幼児教育というのは、環境を構成し、子ども自らがそこに働きかけていく、適当な教育であると保育の定義はされている。「適当」というのは、適切に大人が設定したのではなく、子ども一人一人に適切なものを置くことによって適当な環境と成していくこと。そこで、働きかけることによって、例えば、遊びを通して、お店屋さんごっこで文字が必要だから文字を獲得するとか、数字を獲得するという教育が、多分、公立などでは主に行われていると理解している。いろいろな保育・教育の内容がある中をどういうふうにしていくかという、大きなところでのご提言を頂いているように思う。

3歳児からの幼児教育・保育という部分は、かなり3歳から始めたほうがいいというのが、アンケートでも多かったが、いかがか。

<E委員>

公立幼稚園の者としては、ぜひ、3年保育を実施していただきたい。3歳は友達と一緒に遊びたい時期であり、同年齢の子と一緒に関わりたいという時期であると思う。いろいろなことに興味をもつ時期でもあるし、安心できる環境の場で子どもたちを遊ばせてやりたい思いもある。

<委員長>

一体化になった上でも、3歳からのそういった教育は必要であると。そのあたりを一体化でぜひとも実現していきたいという意味だと思う。3年保育の有効性を幼稚園教育に携っている委員から提言頂いたということである。

<F委員>

草津カトリック幼稚園は3歳児からしか取らない。他の幼稚園と違うのは、縦割りのところで、3歳、4歳、5歳の子どもが同じ部屋の中において、最初に教えてもらい学ぶ時期、次に自分でやってみようという時期、年長になると教えてあげて学ぶ時期があり、1つのことでも3つの学びができる。今、2歳児保育を週に1回しているが、3歳から入っているうちの50名は2歳児から来ている。2歳児の場合は一人遊びが中心。それが3歳になると、違うことをしながら、一緒に集まってお話をしたりする並行遊びというものになっていく。違うことをしながらでも一緒にいるうちに、だんだん相手を認めるようになっていく。その並行遊びをした上で、協調的なみんなで話し合っていると、ルールを守ってするという遊びができていくと思うので、この3歳というのは、本当に大事。集団にぼんと入れるのではなく、少しずつ少人数でいるということが、とても大事な時期かと思う。

<委員長>

3歳からの保育というよりも、その前の2歳の一人遊びをしているそういう姿がまた、

つながっていくということで、むしろ3年間の保育だけではなく、その前段階の未満児も入ってくる。

< F 委員 >

まず、自分をつくるということが大事だと思うので、自立のためには母親との関係も大事。母親との信頼関係ができることで、他の友達や他人のことも信じていることができるというのにつながっていくと思う。教育というのは、押し付けるものではなく、一人ひとりの子どもが持っているものを自分で引き出し、自分で見つけていくことが大事だと思う。0歳からの特徴なども含め、そういった見方がいいかと思う。

< 委員長 >

一体化を検討していく中で、3歳から教育・保育とかそういう線引きではなく、とにかく未満児からの母子関係の充実した時間から社会に出て行く、そういう変遷を全て1つの園でというか、そういうことが一体的にできるという良さがある。

< F 委員 >

それは理想だと思う。

< 委員長 >

今、満3歳児か。

< F 委員 >

いえ、1週間に1回。曜日別に10人くらいずつ来て、50人ほどが2歳児に来ている。集中力も一番あるのが2歳児。

< 委員長 >

一体化には、長期にわたって、子どもを育てていける良さというものがあるのではないかという意見。3歳からではなく、そのもっと小さいころからの連続性の良さについての指摘である。

< G 委員 >

3歳児は4歳児と発達が全然違うと思う。もし、一体化になって、幼稚園も3歳児から教育をとった場合は、やはり、発達、特色をしっかりと学んで進めていくことが大事。

今、幼稚園で4歳、5歳であるが、集団にまず慣れる時間が相当必要で、ようやく慣れた頃に5歳にあがり、せつかく幼稚園というよい施設に入るのに、自立に向けて小学校に上がるまでには少し時間が足りない。一体化になった場合、3歳児からの教育という方向



で、私は良いと思う。

<委員長>

一体化になれば有効な教育として、3歳からの保育・教育が可能なのではないか。さらにそれをもっと連続的に見ていくことができるという意見もあった。

<F委員>

集団に慣れるのには長時間かかるとの話もあったが、集団にずっと入れる子は、母親に思いっきり甘えることができた子であり、一方、早くから集団に行きなさいという子は時間をかけて慣れていく。母親への甘え、依存ができている子は、案外早く幼稚園に馴染み、自立しているように感じる。まず、家庭の中が、本当にそこが一番中心だと思うが、そういうことを幼稚園に入られた方には勉強会とかでお伝えできるので、無理強いさせないで、思い切り甘えさせてくださいということをお願いできる。私は、そういった子どもへの接し方などの勉強できる機会があればいいと思う。

<G委員>

それが家庭に対して、子育ての支援であり、大事だと思う。

<委員長>

そういう支援をしていける場でもあることが大切。発信していかないとなかなかわからない。子育て支援、家庭支援機能のあり方、そういうものを発信していける役割というのは、一体化になればさらに求められる部分ではないかと思う。0歳からの成長を発信していくというのは、親も安心できる。

<B委員>

上の子の時に、草津市の母親学級に妊娠時から参加させてもらった。0歳から幼稚園に行くまでいろいろ行事も考え、楽しく参加でき、上の子は幼稚園へすんなり行くこともでき、とてもよかった。一方、下の子は、上の子のお友達とか関わりでやってきたので、すんなりと4歳から入ることがなかなかできなかった。確かにおっしゃられるように、本当に関わってくることは大事。母親学級というのがあって本当に良かったと今、懐かしく思い出した。

<委員長>

下の子どもは、母親学級に参加していたのか。

< B委員 >

行っていない。下の子が幼稚園に行ったとき、上の子と同じようには入れると思っていたが、少し抵抗があったようで、悩んだことがあった。3歳からあったら良かったと、もっと早くから触れあっていたら良かったと思う。

< 委員長 >

母親学級というのはどこでもあるのか。参加される方というは多いのか。

< 事務局 >

健康増進課の保健師のほうで開催、運用している。

< 委員長 >

どんなことをしているのか。

< 事務局 >

初めて出産された保護者と子どもが日ごろの子育てでの相談や情報交換を行っている。こちらのほうからアプローチするのではなく、その中での交流を楽しまれている。

< B委員 >

非常に助かった。しかし、積極的には行けない方もいると思うので、もう少し大々的に周知していただければと思う。

< 事務局 >

そこに行かれた方々の子どもが大きくなり、そのままサークル活動につながっているというのも聞いている。

< 委員長 >

サークル活動というのは、園ではないのか。

< 事務局 >

園ではない。自主活動みたいな形で、そこに参加された方が、その学級から出て、サークル活動を有志でされているという状況もあるようだ。

< 委員長 >

なるほど。子育て支援の家庭支援という部分から出していただいたので、そういう機能がさらに強化されたものが続けばいいだろうという思い、だと思う。

#### < C委員 >

保育所では、0歳児から5歳児まで預かっているが、どこから教育かというのは、生まれた時から1つの関わりの中で、いろいろなことを吸収してだんだん大人になっていく、成長していくという意味では、生まれた時から教育は始まっている。

保育所の場合、広域入所もちろんあるし、いわゆる家に帰れば全然違う学区に住んでおられる方がたくさんいる。やはり、子どもにとっては行った保育所、幼稚園、そこが1つの世界であり、そこで人間関係をつくりながら、いろいろな遊びとか生活を通して。

その中で子どもたちは自分なりに、誰かとつながるといことが実感できれば、外に向いていく時期が必ず来る。今の子どもは、家から保育所と長時間いるし、幼稚園の子どもでもそうであるが、家庭・保育所・幼稚園が本当に十分継続して、連携していかないといけない。子どもにとってはどんな関わり方をされるか、1日のうちでも関わる人が変わるため、混乱もある。保護者と連携を密にしていかなければいけない。

逆に、家庭ではない集団生活での良い面というのはもちろんある。そういう点では、自分の子どもにとって、どんな生活がいいのだろうか、どんな関わりとか集団がいいのかというのは、本当に保護者が決めるべきである。長時部・短時部の中で、その年齢によりどういうことをするかは、保護者が全てを選ぶことはできないし、保育所や幼稚園も完璧ではない。でも、そういう選択肢がたくさんあるというのは、いろいろな考えがある中では、やはりいいなと思う。

しかし、人間関係の作り方が子どもも下手になっている。うまく伝えられないとか、どうしたらいいのか分からないところで迷っている姿はたくさんある。

草津の公立では、同和保育というところを基本において、小さい時から1つの関わりが一番基礎になるのだということをもとに、人権という視点で保育を進めている。具体的になかなか見えにくいところも多いと思う。そういうことを話し合えるような場がたくさんあるといいいつも思っている。

#### < B委員 >

老上学区は幼稚園も保育園も小学校も交流をよくしている。他の学区もそういう交流はされていると思うが、どのくらい盛んなのか。

#### < 委員長 >

交流というと、5歳児の親が集まってということか。

#### < B委員 >

親ではなくて子ども。幼稚園の子が保育園に行ったり、保育園の子が幼稚園に行ったりとかして交流している。あとは、小学校の子が幼稚園に行ったり保育園に行ったりして交流をして深めて、地域のつながりみたいな感じになっている。

<委員長>

老上では、幼保の連携や保幼小の連携が行事レベルや交流活動レベルでされているのか。

<B委員>

しているが、小学校に入ると、やはり幼稚園と保育園は内容が全然違ったりしていたので、親も子もはじめはなかなかスムーズに一緒になれなかったりする。他の学校はどうかと思った。

<委員長>

非常に難しい問題。幼小の連携などもどういうことをしてスムーズに移行していくか。今、まさに展開されている。保幼の連携とか、保幼小の連携などやっていると思うが。

<C委員>

他の学区では、民間の私立の保育園の5歳児も交えて、交流されている所もある。

<B委員>

小学校とかも交じっているのか。

<C委員>

そのとおり。一緒の小学校区の中で。

<委員長>

地域での子どもの育ちということを、やはり地域性というかは重要。

<C委員>

一つの保育所から10くらいの小学校に入学する年度もある。子どもにとっては、保育所で作った友達同士のつながりとか、それはその人とつくったのだけではなく、友達をつくっていくという経験になっているのだと思う。1人だけで小学校へ行くという子どももたくさんおり、小学校へ入ってなかなか馴染めない例も聞いているが、ほとんど、1人で行っても、その小学校で友達をつくっていくということがされている。保育所で作った友達とそのままに行くということは、はっきり言ってあり得ない。そういうことを想定した上で仲間づくりという、保育所での生活を考えていかなければならない。

<委員長>

保育・教育の中で友達づくりという経験が、小学校以降も生きていくということ。例えば一体化ができた、そうすると、多分、学区というのはすごく多くなってくると思う。し

かし、地域で育てたい、地域で育てるという意識も大事にしたい。このあたり1つの課題にもなってくるだろうが、いかがか。

< A委員 >

親の連携のほうが大事なのではないか。

< 委員長 >

なるほど。もちろん、地域も大事であるが、地域というよりも親。

< A委員 >

地域の子どもは、保護者なり先生がリードしていけば、友達になる。でも、親同士というのとは、なかなかそういう意味ではつながっていけない。そういった場をどうやって地域の中で確保していくか。

< 委員長 >

いろいろな地域があったとしても、それぞれの地域の親が、ネットワークをつくってつながることによって、そこで地域というものをしっかりと土壌としてつくっていく。そういう仕掛けをどうしていくかということ。例えば、どういうものがあるか。

< A委員 >

地域会であるとか、役員会とかに出る人が決まっている。そういう一部の意識の高い人と、そうでない人とのギャップをどう埋めていくのかも大事。

< 委員長 >

経験上こういうものがないとか。

< A委員 >

そこはなかなかこれといったものはない。

< 委員長 >

親のPTAや保護者会はあるが、地域会のような、地域で何か活動されるイベントとかはいかがか。

< A委員 >

ある。ただ、地域部会や保護者会での役員レベルでの交流はあるが、一般的な方々の交流の場はないと思う。

<委員長>

その視点は大事。地域が広がったとしても、それぞれの地域ごとの親の連携は大事だとは分かっているが、その地域で親がしっかりとスクラムを組み、子どもたちは、私たちこの地域の親が助けるというか育てるのだとか、そんな意識づくりなどは大きなポイントではないか。

<H委員>

3歳児からの幼児教育について、私の子どもでは、2人が2年保育で、1人が3年保育であったが、2年保育よりも3年保育のほうが集団になれるのが早かった。草津の幼稚園でも3歳児から受けてもらえることはいいことだと思う。

<委員長>

4歳で最初に慣れることから始まり、次に5歳では時間が足りないという意見も出ていたが、その具体的な子どもの実情をお話いただいた。やはり、この一体化を機に、教育・保育の部分で3年間、さらにはもっと長期にわたって、子どもたちを育てていく視点を大事にしたいというご意見。

そのほか幼保小、小学校の連携について、いかがか。

<G委員>

5歳児と小学5年生が交流する「5・5交流」がすごく良かったという保護者の声を聞いた。小学校の立場から考えると、教科でもたくさん組まれていて授業時間数の確保がたいへん重要であると言われている。保育所とか幼稚園から、こんな交流の仕方があり、実施したいとどんどん小学校に提案してもらえれば、小学校も教育課程をそれなりに考えてつくっていけると思う。

「5・5交流」が良かったという声があったら、それを広げていくとか、生活科等の中で、小学校の大きな子どもと交流するといった機会が必要と思う。幼保一体化になったら0歳からの交流はできてくると思うが、閉鎖的になる部分もあるので、縦割りもよいが、いろいろな人と異年齢で交流できることも重要。

<委員長>

「5・5交流」は、5年前に滋賀県の教育委員会が幼小連携事業という5年間の計画の中で打ち立て、全国でも有名になった。今の発言の趣旨は、発信していくセンター的な役割を担っていくにあたり、やはり小学校は忙しいので、こちらからどんどん言っていくこと。これは非常に大事なことで、子育て支援の話もあったが、家庭を支えるのもどんどんやっていく。さらには、今、保育所・幼稚園で連携もやってはいるが、なかなかぐっと乗り出してではない。そういう機能をそこに持たせたいという発言だったと思う。

<副委員長>

それぞれどれも大事な視点で、2歳から3歳までの子どもは、本当に一人遊び、環境とのやり取りの中でじっくりと生活を通して育てていかなければいけないし、4歳、5歳になった時には、小学校との接続とか、集団に慣れていくとかも含め、あるいは学習意欲とか、何かに挑戦して何かを身に付けていくとか、何か自信や意欲を持っていくというモードに早く切り替えて、どんどんそれが進歩して獲得できてというものが、もちろん保護者の親心であって、園から見てもそういうことを大事にしたい、期待したいというところ。幼稚園にも保育所に対しても、そういう期待や願いがあり、幼保一体ということで認定こども園になって、それぞれがニーズとして、結局、活かさなければ意味がないということなので、ある意味では難しいと思った。

もう1つは、幼稚園、保育所に通う家庭の環境も違えば、子どものニーズも違う。保育所で子どもを教育するというのは、1日の生活を通じて、一人ひとりの子どもをはぐくみ育てる形での保育的な教育として、実践されているわけだから、午前中と午後のプログラムを全く切り離してしまえないということが意見としてあった。1日を通じて子どもをしっかりと、抱えはぐくみながら、いろいろな刺激、体験もしながら育てて教育をしている。だから、一部分だけ幼稚園という時間にして、プログラムをつくっていくこと自体がかなり難しいだろうし、午前と午後に分けてしまうということで、その進度が変わってくというようなジレンマがあることもあり、難しいと思った。

2歳児、3歳児の子どもたちに対して何が一番大事か、4歳児、5歳児に対してはまたそれがどう変わっていくのかということのをうまく整理し、一体型の園では何をしていくかを考えないといけない。

だから、イメージがまだまだ1つに結び合わされていない感じがするので、何かこれを1つのものへ流していく。そのためには1日の過ごし方、どういう空間をつくるのか、年齢によっても違うだろうし、それから、全く全部同じでなくてもいいと思う。やはり、こども園によって個性があってもいいのではないかと思う。はぐくみ育てるということを、重視していくということを前面に出すこども園と、それから、いろいろなものを身に付けていく、獲得していくような教育を授けていくことに、シフトしていくようなこども園もあって、それは1つの範囲の中で、幅があって、個性があって、それを理念と打ち出した中で、それを保護者が選択して選べて、自分の考えとか今の求めることに応じて、利用していけるようなものでもあるのだろうという気がした。

ただ中身をどういうふうにつくるかが難しい。それに、障害のある子どもの受け入れもふまえると、非常にベクトルの方向が異なるため、受け入れられにくくなってくることもあるかもしれない。実際に、なかなかイメージできないという感じを受けたので、難しい課題があると思う。

<委員長>

意見を多岐にわたって考えてみると、6つの項目、ほとんど出ていると思う。今日の内容をまとめてみると、まず、保育・教育内容について考えていかなければならない点が3つ出た。

まず1つは、3歳からの保育ということを含めた中で、0歳から就学前の小学校までの育ちというものをどのようにしていくか。ここを連続的にやっていくことが、非常に重要ではないかという点がある。

もう1点は、最初に、長時部・短時部という具体的な例を出していただいたが、子どもたちの午前の保育・教育のあり方、そして午後からのあり方、ひいては1日をどのように子どもたちが、早く帰る子、長くいる子、そういう生活をする中でどのようにしていくかというのを、十分考えなければならぬという点があった。

それに関わって、特別な支援を要する子どもの保育・教育というものをどのようにしていくか。

この3つについては、全て内容を検討していくことは必要であるが、職員の体制であるとか、園自体をどのように動かしていくかという制度的な部分も含まれる問題である。今後これは論議していかなければならない。これが教育・保育の内容として3点挙げられたと思う。

それから、一体化施設に望むということで、かなり発信していけるのではないかということが、これもまた3点でたと思う。

1つは、子育て支援、あるいは家庭教育などを支援していくための機能というものを、具体的な事例をいろいろと出していただきながらも、やはりそういうものをリードしていく園でなければならないというのが1つ。

「地域」という言葉が出たが、地域を限定するというので、1つの地域が1つの園ということではなく、たくさんの地域があるが、それぞれの地域の中で保護者同士がどのようにつながっていくか。地域の保護者をネットワーク化するような方策を積極的に発信していけるようなもの。これが2つ目として求められている。

3つ目は、保幼も含めたものであるが、小学校との連携ということで、1つのモデル園のような形で、存在してはどうかというようなもの。

これが3点だったと思うが、以上3つを発信していけるような機能を持たせてもらってはどうかということと思う。

次回6回目は最終回で、「中間のまとめの報告書作成」ということになる。本日、最後の議題として「中間のまとめ報告書」に盛り込む前回までの分を、草案として提示している。その説明を事務局から行うが、その前に、草津市における就学前教育・保育については、今日の論議でもそうであるが、まだまだ幼保一体化施設には問題、課題というものも多いが、かなり大きなメリットがある。アンケート結果でもそれは明らかになっている。

この検討委員会の総意として、幼保一体化施設の課題や問題などを、丁寧に解決してい



く努力が必要である。もちろん丁寧にそのあたりは見ていくが、草津市としては幼保一体化を進めていくべきであるということを、この場で確認させていただきたいと思うが、いかがか。その方が、具体的に話が展開しやすいと思う。

< A委員 >

進めるというのは、モデル園をつくるということか。

< 委員長 >

いえ、今年度はそこまで議論できない。モデル園をつくるのかは今ここでは決められないが、一体化施設を進めていくということで、後ほど、来年度、どういうことをしなければならぬか皆さんにお伺いしようと思っているが、その中でモデル園をつくるというならば、来年度はその方向に向けて動いていかねばなりません。

< A委員 >

そういうふうには言ってはいない。

< 委員長 >

その議論をしていく前に、一体化を進めていくという考え方を、ここで総意として決定させていただくことによって、さらに話が進んでいくのではないかと思う。具体的にどうしていくかは、課題が多いので、慎重に論議していくことはたくさんあるが、一体化を進めていくということを、ここで確認をとらせていただかないと進まないと思うが、いかがか。これは、もちろん全ての幼稚園・保育所を一体化するというのではなく、一体化の考えを進めていく、そのために何が必要かは、今後の議論となる。

< C委員 >

利用者の保護者委員が半分欠席であるので、もう1回、場を設けていただきたい。

< 委員長 >

今日は、保育所・幼稚園の保護者代理の2名が欠席されているということで、一応、少し改めてとらせていただいたが、今日だけでなく、前回、前々回も含めてであるが、かなり一体化についての積極的な意見は多かったように思う。もちろん、課題もたくさんあったが、それに反対する方はおられなかったように思う。

できれば具体的な課題解決するために、やはり3歳からの教育・保育という部分から、もっと長期的な子どもの育ち、子どもの最善の利益を考えたご発言を、今日は頂いたと思う。そのあたりが、一体化と反するものでないというのが、私の見解である。皆さんの意見として、総意としては、私はここで、それをもう一度確認したほうがいいと思いのよ

うに発言させていただいた。

< A委員 >

今一つ見えない部分も多い。本日でということであれば、私は保留したい。

< 委員長 >

見えない部分とは具体的に。

< A委員 >

問題点等の解決や、幼保一体化の一体というのほどまでのことを言うのか。幼保一体施設と言いながら、その施設を外して幼保一体とすることはよいのかなど。また、幼保一体施設でなく、その幼保一体という場合の内容前提も、見えない部分がまだまだあると思う。保護者も2名おられないということで、今日この場での態度決定というのは、少し難しいと思う。

< D委員 >

幼保一体という、それぞれ幼稚園と保育園が、それぞれのいいところを取り入れていくという考え方としたら、それには賛成できるが、幼稚園と保育園を合併させて、統合していくというふうに進んでしまうのだったら、賛成しかねる人も多いのではないかと思う。

< 委員長 >

統廃合しようとするものではないし、この委員会の論議の経緯をずっと見ていただいたら分かると思う。アンケートで一体施設を、委員会意見で選択肢がたくさんあることが大切との意見もあったが、幼稚園をなくす、保育所をなくすとか、そういう考えではなく、一体化というのはいいものもあるのではないか。もちろん、まだまだ見えない課題も多いけれど、一度検討していこうということで、この検討委員会が立ち上がったと思う。

かなり議論を重ねてきたので、では、一体化を進めていくという方向で、今度は建設的に課題や問題点を解決して、どのような形、どうしていったらいいかとなり、施設というものを具体的につくるのであれば、どのようにしていくという次の問題になってくる。そういうところを進めていくためにも、いったんここで、この委員会としては、一体化を進めていく方向で検討に入ってはどうかということ、皆さんで確認しあったらいいと思って発言させていただいた。

確かに、これで「うん」と言ってしまうと、何かどんどん違う方向に進んでしまうと思われるかもしれないが、決して、今までの議論を無視しているわけではなく、議論の中で、いろいろな課題を慎重に解決していくことがたくさんある、そしてそれを進めていくとなったときに、一つ一つ慎重に解決していく方法が取れるのではないかという思いである。

< A委員 >

議論は十分尽くしていったら、その中で方法を探っていけばいい。

< 委員長 >

今日の段階としては。

< A委員 >

問題の方向性が見えてきたというところではないか。

< 委員長 >

問題の方向性が見えてきたのは、一体化施設であり、今回は具体的に施設という部分で、かなり射程されていた論議だったと思う。そのあたりでご意見を頂いていたので、一体化を進めるという方向は間違いではないと、皆さん反するところではないと思っており、決して多数決でどうのこうのというわけではない。

そのあたりを確認させていただいたほうが、話がさらに、より課題の解決をしていくためにいいと思った。もう一度、一体化を念頭に置いて意見を頂いているので、より具体的に、もう少し見えてくるものがあるでしょうし、そのあたりで、進めていければと思う。

< A委員 >

はっきりしたほうがいい。

< 委員長 >

あまりにも見えてないことが多いということか。

< A委員 >

そのとおり。正直に言うと、怖い部分がある。

< 委員長 >

その怖さは何か。

< A委員 >

保守的とおっしゃっていただいたら、結構かと思う。

< 委員長 >

いえ、そんなことは思わない。やはり、すごく大きなことだと思う。今まであったものが形を変えて1つのものとして、しかもこれをこの委員の中で、方向を決めていいのかどうかという、多分、今日ご欠席の委員がおられたら「いいんですか」とおっしゃるような

気もする。ただ、来年度、どういうことを話したらいいかということであるが、皆さんに知っていただくという機会をもっと持たないといけない。例えば、来年度シンポジウムなどを開き、こういうふうに進めてきたと。それが、いったい全国日本の動きとどうであるか、あるいは学識経験者、それを専門に研究されている先生から見てどうであるかなどの議論を市民の方に見ていただいたりするということも必要と思う。

< A委員 >

それは確かに、そういうアピールは必要。

< 委員長 >

アピールということは、前回あった。これは、決をとるのではなく、確認させていただこうと思ったが、結構。

では、慎重にそのあたりの課題を、今後も話し合っていくということで、今日はこれで終わりたいと思う。

## (2) 幼児教育と保育の一体的提供に向けて（仮称）

### 中間とりまとめ（草案）について

< 事務局 >

資料4をもとに、今年度の報告書の草案の校正や内容を説明。

< 委員長 >

中間のまとめ報告書が出ますということであるが、来年度も委員の皆様方には引き続き委員ということで、多分、6回程度だと思う。こういうことをやっていかなければならないということがあったら、今、発言いただければと思う。

これは私の意見であるが、1回、草津市の幼保一体化とはこういう形で教育・保育がなされて、こういう体制で、というようなモデルをつくっていくことによって、その解決を図っていくということもできるかもしれない。

こういうことをやったらどうだろう、というのはあるか。また、次回にでも聞かせていただければと思う。

また、資料4に対する意見について、2月12日火曜日までに、事務局までご意見をいただきたい。本日の議論も含め、私と副委員長も入り事務局と協議し、次回、つまり第6回、最終回に皆さんで確認をしていただく最終案を作成したいと思う。

事務局には、来年度の委員会で検討すべき内容案を出していただいた方が意見が出やすいと思う。一度、案を出していただきたい。

そのほか、よろしいか。

< A 委員 >

先ほどの、なぜ決をとらないかということに対し、なぜかというふうにおっしゃったが、これまでの保育園の良さ、あるいは幼稚園の良さ、それが消えてしまったら困るという、そういう恐れがある。

< 委員長 >

私個人の意見としては、全てを一体化していくということを推進する意味ではなく、一体化というのも選択肢の1つとして推進してもいいのではないか。保育園の良さというのもしやはり選択できるように残したい。幼稚園の良さというのものもある。それも残したいという部分があるので、そのあたりもう少し出し合わないといけない。

### 3. その他

< 委員長 >

次回第6回は、平成24年度の最終回。3月5日火曜日の午後2時から。場所は、本日より同じ場所

### 4. 閉会